

景遊
勝覽

阿都渴却比

三

| |
|-------|
| 915.5 |
| K2 |
| 3 |

K95.5
K2
3

東貝卷之三

御餞別

他諧之百韻

栗本玉屑著

茂里遊之久矣其理道和計此手
世學布之乎以一節於其身
おもひ入學の志乃存更育
おのち語を存大和 於うら風
引たるの風を信平秋也等之入

玉屑
闡更
重厚
二柳

東貝卷之三

庭すみりたる朝のけ乃水 明石嶋國
 態は子乃駿く無状をさかも 高砂布舟
 う(馬)塔か市きりかろお格あう之 あり五齡
 去之種て無少事は天よ本暗平 京 嵐月
 麴車をさく控くたそくのれ 同 百池
 ひちく少く古穿と誠万人待す 三木如鏡
 みうくばききとれ存と去のあふや 兵庫童古
 朽わくも花さく昔は四月の 同 岩苔
 くれく昔ははるふ庭芝 加吉川五栗

迷ひをそりたる斗借は事々 新野皿脱負
 ち筆をとちくく生は浦和赤 別府巴紋
 有はの原やよふ之少く為の隆 淡路喜岐
 少く山雀ウツリカウ控より 同 括菴
 川 舟はナ里ハヤ考地ひと移あり 同 無曇
 初は下動は 水とくくき 同 青城
 あけ初のくちりの花のちえれ 同 紫山
 初は鱧をとくそくとりあり 同 波州
 二才
 集の由良は細家くらが地 同 五陵

澄秋去々汗 去屏取尺白 同 若笠

毫うゆー 去々日 皇幸於子 毫 去々 依用馬肝

嘶く駒と誘ふわりの 同 若里

ちしとまは津押て 存ま母如松系 魚崎洗州

先しゆぬるり 何と 陪るの 同 素明

くきくは存のい 之 秋之遠りて 生野涼秀

捨心ぬくまは 少玉をさらく 祖馬至峰

は園やえう 何子 陪る一の谷 同 季栢

丘をひかり くの北は 毛之至 同 馬北

碁をわらむ 毛之座 蒲のうら 布き 日 乙坡

若く弟は 量と 飲りくのち 幸理 日 梅午

山の舟 皇廿日 舟乃 程おそく 日 鳳樹

ふきま つける 風は 花の 芦 日 眉紅

ニリ
今も 毛之 少所 骨の方 今 日 月波

あつと 毛之 一 條 毛之 毛之 片袖 日 梅爾

こす 神の 言の 毛之 染地と 渡 糸 新や 日 梧堂

床 毛之 子 寸 毛之 か 茂の 川中 日 尚古

くちと けて 毛之 神は 上 戸の 女 あり 播磨田旭

隠せしぬみ新神さくらりきり 伊勢舎乙
 ちの秋をこ 瀧ぬるみ神恵みよの 日 官風
 おも 早人か本このなる 月 日 吏甄
 きりくひ今ふむりかきよの京 尾張隊央
 管さしきそける 菴乃 饒治 日 騏六
 いのち神は甥は騎者終事好日也 日 五周
 もはあ〜ひする 山初水 日 岳輅
 天の代 皇鬼の 極も花垂 日 白圖
 ちよもま集しかりよるこの南 日 岱音

三才

去年あ〜し ちの秋〜 麻衣 日 羅摩
 馬子や〜の野治は篠糸 日 士朗
 朝中とき嵐は朽丹大よ 林也 善寺柳庄
 あ神〜山神子 智也 なる 日 路人
 絶方多く 降を ぬる妻をく 日 五什
 七尾は酒千を統〜 二とせ 日 猿元
 才にせよる 眼鏡の 海おぬえ 日 文北
 み菊は子なり〜 二あは争 上田 如毛
 ちらかあ〜 日 ちを けは なる 月 日 千常

三六

也のしや遠年通る笛の音日 春二
 塔塔園をかきて無た心植の程 詠訪雲門
 人し女ありて割る滴矢日 一竹
 雨のち午木似七塔も春きて 日 素磔
 日ちのけ里いしし日永年 思及作良
 三ウ
 御三ちやむ孫年胡蝶のちの暇日 飛魚
 ぬるまき遊路のちの暇日 一木川 日 漢甫
 風お種う江に午かゝるをうと日 真須魚
 あし心鶴年一昔木力を礎日 哥氷

夕の屋の花乃きき方小く如里 駱河梅壺
 心離年いまふかりきぬれ袖 江戸吹石
 寺川まき正行年一の果年 日 奇長
 狭り路年福お地魚又可也 日 成美
 傘子那れおはまるとあま交日 泰昌
 ち形種鳥入 遊由信水 日 寸耳
 五六人中の地盤あのかまふ 日 宗讚
 雛れたら種やさあまき此有 日 吉丁
 花競ふ春ふくをあふりす 秋白吾長

西三

雅子追 歸る川 播布反 近江直越
 木芳水二 颯々採たきく 西房山坊
 夏よりなき 夏無者より 日 馬印
 松風をす 貴徳寺也 汎ゆる人 日 梶木
 秀り 傳ゆる 枇杷無房な理 京都五芳
 夫より一を 引く自勤て 上野親守
 狼々々々 山は去る 道 下野尺樹
 リ 水は瀬のたけを 恨むる 日光雲控
 おもひよ 去りむ 国は五月雨 日 嵐梳

梅花僧 教はた乃 おく 神子 本室冥々
 ちゆく 布より 多は 雲其 白石乙二
 朝之 神和 依處を 見おる 仙臺半座
 是より 衣より 袖より 入月 日 雄劔
 都を 衣や 衣の 襟入 吟 日 白居易
 桶の 糸 結き 結て 走る 新法 松竹 投雪
 くらよる 雑魚 網中 秋の 風 南極 平角
 佛を 抱む 日て すす 素衣 日 素郷
 合 欽木 予予 予予 予予 早着て 秋田 礎一

岩子如麻子花そくこを漕日 溜江
 渡より平川にて馬帽子塔新日 野松
 朝日さく入かき御所の階日 五貞
 天津下花も同心交香と念日 五明
 妻平あふ母花四方花科く酒田 忍子

○

お花あきた秋多事心より騒く 玉屑
 采女の鏡花妻共遊之女理 闌更
 海苔より平指糸妻花前を思す
 馬車共花車かへり方あつ云 屑
 園又共方かちりけひの果を月
 院花御花共 駕の花をん 更
 子より先になれ花林を割けり
 葉より入りしは夫風多花共抱 屑
 川より花共流る花御小舟共 更

在持記 今有持者 是也 禮下
 六波羅 持者 交い かなを 持たは
 一ら 子を 舞は ば 亦 亦 して 三
 ち 持た せ ぬ 交い ぬ 物 持 持 持
 ひ けり けり 瀧 せ せ せ 秋
 其 也 せ せ せ せ せ せ せ せ
 少 一 飲 せ ぬ せ せ 上 戸 へ
 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 水 も せ けて せ せ せ 水 の 色
 層 更 層 更 層 更 層 更 層

能言 道は 秘藏 の こと にくら せ たり
 毛 髪 せ せ せ せ せ せ せ せ
 晒 橋 せ せ せ 唱 哥 も た せ せ せ せ
 然 子 花 せ せ せ せ せ せ せ せ
 以 乃 佛 せ せ せ せ せ せ せ せ
 物 せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ
 其 乃 福 せ せ せ せ せ せ せ せ
 多 多 せ せ せ せ せ せ せ せ
 此 神 せ せ せ せ せ せ せ せ
 層 更 層 更 層 更 層 更 層

東貝三之巻

地分年大種と細志ておく
 儼とく子も初ひそ我平は事
 事然たり一う此無亦子法印
 中一わ心身肩結最痛那ぬき
 牛一結や下ひを念し神て忍結
 大京結海幸結日かつらよき一
 小溝一わ櫓なるほんかり
 米也出地無無玉皆くるべき
 子好集之結川一過ふあり
 更 層 更 層 更 層 更 層



唐京百種を了済 米存結到る哉
 瓜も少きく世ひくさあ結家
 牛吼結子も子兼子結抱き
 陶走結けら結家無結たり
 子事結皆おも一諸き喜の深
 くをけさるもか平景種はうらく
 雪消分報然結峰平平結き
 今一やもつ舟も山もゆあゆり結
 実つあ結旅をいた分多結平
 更 層 更 層 更 層 更 層 更 層

士朗

玉層

力多結を奈神女墓系結家
 花之秋を勢元を一志のしう
 三日有命く北おもひ之う
 くの秋を西出を子母之志く
 一野たより子母ふ鮎補
 子母を一也言をうの結無望
 少望相和涵向し半月
 之川志乃曙穰之結あし人
 ききし地いやく任國結愛
 層 朗 層 朗 層 朗 層 朗

施結終千は希くる和火枕貝
 眉を結お一むまほく結半
 係種千むまの垣をくら垣を
 語無信くも神後のみ
 買入な結丹結たをこ子母是
 け川有と謀を おくる朝風
 あきけ子庭を結子母を心
 佛結圓くもたをくも川以
 名くもあ結穰相あをむ畑の月
 層 朗 層 朗 層 朗 層 朗

東月二二六

家如やうりもや十日よ
 却えよ中子飛鳥おぼる
 芦根 堤に轉りて西の空
 肩て馬より蒼電を建批て嵐吹
 よくはらうく山伏は母
 今きよの室はむを証する人
 こき世は忠乃 昔もゆるる
 御堂上るあま 鞆籠を志批 旅者
 胡蝶のともは 祓ふは 反橋
 朗 脣 朗 脣 朗 脣 朗 脣



紅紫葉内 皇日之神て北一とん
 有種あつ 語と記世皇 御多計
 負あつ 以答は 臣色お 庭あけ
 おもひ入 極き山 佐き方り
 晨明はす らの類乃 あら(し)也
 小田かき くりりり 空に 稻垣
 望人の 露は 水の志を ち
 落り 君を 柳らん 志のち
 升の 扱は 四方 ちと 世切て
 良 岐 里 脣 漢甫 作良 青岐 可都里 玉脣

控とくろく 東山二 西月比 浪
 紀の野をさす 佳王の 天と寺
 遠く似くろく 春乃の 之種哉
 白布をさす せね道と 元と虎
 餌飼は 若移れり 川 ぬき
 物は 喪平 二十日 重種 八瀬 割く
 新魚は いろり いろり いろり いろり
 月と 雲 駒は いろり 惜むらん
 小蹄の 貞樹の 佳國の 秋
 波 里 層 車 良 破 申 層 里

弥は 道平 なるひて 安地 隆河 塩
 大黒 世は ぬく 川 尾 可る
 物 かし 妻か けり いろり 比 な 種 和
 ばら ぎを いろり 種 の おま いろり
 芦の ぬき 竹と 代平 志の 比 入
 須藤 之 水 蒼を たく 風 花 和
 鷲 可と して 実 志 和 毛 和 射 せ 鳥 一
 顔 心 妹 の 保 古く 語 を 足る
 三つ の 枕 固 障 一 越 る 雪 月 日 平
 車 岐 良 車 層 里 車 良 層 里

月もたつと秋——三日月は里
 之日もたつと秋——三日月は里
 古もたつと秋——三日月は里
 時頼の夜馬あそ——三日月は里
 た女半——三日月は里
 川ぬ糸でたつと秋——三日月は里
 糸結たつと秋——三日月は里
 花中——三日月は里
 花中——三日月は里

骨 里 良 岐 甫 骨 里 良 骨

○

冷風多し之をて梅は赤らみ玉
 酔は清乃——三日月は里
 唐考——三日月は里
 い——三日月は里
 焚火——三日月は里
 花は——三日月は里
 い——三日月は里
 植の——三日月は里

成美 玉屑 美 骨 茨 骨 美

東月三之次

人喰う〜あぢ〜あぢ
 早も無しの庭を〜月物の〜
 障り六に基〜ちを〜あて主秋
 指頭は癒れ片身〜病折る
 折〜子〜この親は像
 姉〜ありぬ〜らみは籠向〜
 蔀を〜半〜む釋迦半は着
 幅幅はぬれむらむらみ半は口
 あきほき〜ひ〜ふ〜一時
 美 眉 美 眉 美 眉 美 眉

○

溪は梅ち〜の〜に折れ袖白〜
 膝存〜折〜れ馬を〜か〜折る
 遊〜く〜小〜き〜誂〜さ〜し〜る〜也〜恨〜む〜人
 海をむ〜の〜ふ〜半〜平〜あ〜く〜半〜ら
 晨ぬれは田舎ら〜冬風を〜い〜む〜見
 糞吐〜し〜る〜を〜抑〜く〜甘〜ら〜露
 秋空を〜か〜み〜ひ〜も〜か〜し〜水〜子〜寺
 所〜し〜也〜む〜男〜を〜刀〜し〜さ〜す〜は
 小西澤 恙は〜半〜報〜無〜事〜也
 美 眉 美 眉 美 眉 美 眉

東国三才集

片おもひた原に母はあけくは
 かるくはめとくは書かせん
 臣の志やまぬる妻はむら
 月氷の如き橋半に水さす
 詠物に家司のおくる白酒
 景席に書詠にまきとる
 去る科九に庭に抄花
 粉胡梅を吹飛す籠一高
 三下とぬら娘さす中ゆき

層 層 層 層 層 層 層 層

四之はまのりはお園よく雨
 和さしきいり川帯計る
 茂たす白接枝裾ち拂ひ
 枯枝の系は根芽を起し
 春風はふれを忘れて春日
 生れ出でいあまく鳥城の子
 梅木の侍平強よむ掛はる
 和舞者への眼はふれす
 園歌は梅花のりも二十季

層 層 層 層 層 層 層 層

秋は終りて 西の空の
 白雲はあつたに 秋の空の
 少き風は 焚火の煙
 或は此の空に 吹く
 人よ 人を 夢に見て
 空へ 帰れ 世に 下りて
 汝は 穢し 目移り 人
 ありて 市袋 和蘭 志の心
 あけ 初め 雲は 霧に 入る

香 香 香 香 香 香

一さうから 秋の風
 日移り 風は 夕月
 空は 雲に 把り 秋の
 志は きて 酒に 入る
 片は 雲に 霧も 入る
 何れ 架木 腐る 石
 小舟 舟に 打つ 石
 志の心 息を 吐く
 ひとし 舟に 降り 志の心

香 香 香 香 香 香



香

菅とくしんり入 谷石 砂橋
 宗老とくしん 神の古字卯のま
 鳥帽多とく 弘法甲斐の何某
 きのはまは次一ひのる舞り心
 屏風を倒し 草入 結ひぬ
 之種縁平 なる種て 舞るる 友権
 祖師の念佛一の 二十八日
 ちりり 平あふ心 入るん 月
 滝はあふり 舞に 舞るる ともい

山家領の 堀は石も 集あきて
 某は小舟 柳志 直一 一ツ
 又せり 一 雪片 想の 煙玉の 柳心
 化千 一 一 のり 一 杉本 の 某
 茵二 一 一 番ひ 乃 亦 亦 亦 亦 亦
 駕し 一 一 一 志て 一 枕 一 一 一
 手造り 一 一 一 藤藤 藤 志 乃 有 田 瓶
 轉 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 海は 一 一 一 一 一 一 一 一 一

並木水新樹景露新風
 河津水白少池高水重了了
 草重水新露色直き侍女
 室奴千寒之—雪水秋葉
 月と草海を浦乃—花うね
 矢叫以毛翠水松千三院花
 棧 古由の人のか汁涙心
 柳為千鳥帽千春—江依也七
 十—の妙—石水古文

江 層 江 層 江 層 江 層 江 層 江 層

七の秋月と角振る牛を繫と
 東—川—方水燈 河—水
 あ—る—志—心も冷る思日七
 む—一—流千雪水春水如揚
 古—守—度耶を—し種は松原
 僧者如権千—人 半—の—寺方
 空車小霧隠水千川連—
 名流水影きく—月水—き—雪
 如神水之—秋水洞方妹家千

層 江 層 江 層 江 層 江 層 江 層 江 層

東山三之卷

松原水乃 色平之主人
 迷以道 神後千常 以の也
 景平仲 千 似る 亦像
 考しむ 於 祿く と 成し 極底
 多之 保と 出 神 け 又 の と の 地 乞
 好 文 千 一 辰 於 朝 日 酒 無 濃
 帝 多 記 数 千 一 一 心 多 物
 亦 の 心 千 一 以 神 文 の 一 一 心 多 物
 千 一 解 千 一 保 千 一 一 心 多 物

江 原 江 原 江 原 江 原



去 千 一 一 心 多 物 一 一 心 多 物
 楸 也 亦 心 多 物 一 一 心 多 物
 為 采 揚 多 亦 一 一 心 多 物
 毛 千 一 一 心 多 物 一 一 心 多 物
 舟 の 心 多 物 一 一 心 多 物
 山 松 耶 一 一 心 多 物 一 一 心 多 物
 保 守 の 麻 呂 一 一 心 多 物 一 一 心 多 物
 浅 木 於 菅 一 一 心 多 物 一 一 心 多 物
 以 無 千 一 一 心 多 物 一 一 心 多 物

玉 原 五 明 原 明 原 明

幸き以得世無憂子奈此
 移中平一那谷此佛の里里
 新酒也一と過此此れ
 標多此き神て懸く多月平
 石切我く凡禱山此。高
 思昔平一形之此包春負せて
 奈ら此乞食平相之きなり
 也此(此女新心之方志の落
 夫ら一すき此交る席杖
 智 明 智 明 智 明 智 明

山多結集乃日御を尾おいて
 移中平一那谷此佛の里里
 新酒也一と過此此れ
 標多此き神て懸く多月平
 石切我く凡禱山此。高
 思昔平一形之此包春負せて
 奈ら此乞食平相之きなり
 也此(此女新心之方志の落
 夫ら一すき此交る席杖
 智 明 智 明 智 明 智 明

何て朝より配り芳飯
 朔日も二日もたえにや
 程言降かゝる秋の長柳
 一とけは身計り意を
 事降 equal 花をさし川
 た〜〜と踏音をさし
 春もさ〜と浦秋志賀の浦浪
 建家平けと秋〜と丸を
 傳〜とさ〜と秋〜とる

明 眉 明 眉 明 眉



其は山志〜行舟と山骨危
 花畑〜とる女は下氷
 多習ふ子嬢の袂子重あり
 人の声の馬をけ〜とる
 月影は秋平ぬらむと
 紫木焼や〜と秋もた〜と
 百草撫〜と〜とある
 才坊と秋嫁を定めぬ
 葉〜茶と雨〜と春は雪の

層 羅城 月居 荷屋 蒼靴 麻古 石分 眉 城

東見之卷

その集も又徳と尊なる
り心無とて皆神午子も
暮れをちふむ西リ
松の葉は尾神は神は
存れありて人出たり
有明の園にありは浪よき
ことせられ秋無花の上風
名とともは神の骨かむ木
予はたなき日た深きする

居屋 帆馬 号古 博層 屋

滋潤をばりて立ハ借ま
神一之りまは樹はま
山猿の茶湯しをまれば
世苦ふは茶をりとの
ワの神はをいも進め
目赤不動をねむ青し
ひやし秋無と神は
葉の日記をの神は
山の方月はありをま

帆馬 号古 博層 屋

山の方月

山の方

高の山もさく清代と云ふは里
 高の山もさく斗と云ふは入
 女其石をさく川一風はさすは
 入代る多田は湯水は及深く
 餘も平も拙多はは 高
 三手は喪無明をるさは家子
 跡迹一とて騒く人く
 炭く了も山指法夢も花の雪
 雪解の水平一和る是科

居 城 札 骨 印 活
 層 印 居 城 札 骨 印 活

兵庫県立図書館
☎ 078-918-3366



106604846